

花 き 類

花き病虫害防除対策推進事項

- (1) 栽培条件や品種が多岐にわたっており、同じ花き類でも発生する病虫害が異なるので注意する。
- (2) 農薬の使用に当たっては、条件により薬害を生じるおそれがあるので、十分留意のうえ薬剤の選択を行い適正な使用に努める。
- (3) 施設栽培では同一花き類の連作により土壌病害の発生が問題となるので、土壌更新・土壌の消毒に努める。
- (4) シロイチモジヨトウ、タバココナジラミ、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど難防除害虫については、早期発見に努め、発生初期の低密度時における防除の徹底を図る。

花き病虫害防除実施上の遵守事項

- (1) 花き類は栽培条件や品種が多岐にわたっており、ときによっては薬害発生のおそれがあるので、新規農薬を使用する場合、または新品種を栽培する場合など、それぞれの条件のもとで薬害発生の有無及び品質に及ぼす影響などについて、あらかじめ確認したうえで全面的に使用する。
- (2) 薬剤散布は気象条件を十分考慮して実施する。特に長雨後に生育が軟弱な場合や、急激な高温または低温条件のもとでの散布は、薬害が生じやすいので注意する。
- (3) 施設栽培では一般に軟弱に育ちやすく、薬害も発生しやすい条件にあるので、薬剤散布は日中高温時には行わず、早朝散布を原則とし、散布後は薬剤の速やかな乾燥に努める。また使用濃度を低めにするなど薬害発生防止に努める。
- (4) 農薬の特性に十分配慮し、希釈倍数、使用量、散布量、散布時期など適正散布を励行し、特に花き類では開花前までに防除を徹底し、開花期間中の薬剤散布は努めて避ける。